

自らを僕として

出エジプト記二一章一〜17節

しかし、その奴隷がはつきりと、「私は自分の主人と妻と子どもたちを愛しています。自由の身として去るつもりはありません」と言うなら……彼は生涯、主人に仕えることができる。(5、6)

4/

十戒に続き、民の社会生活における規則が語られます。この最初に奴隷について語られています。奴隷を買い求めて自分の家で働かせても、七年目には自由にしてやりなさいと命じます。借金の多少にかかわらず、無償で自由にしなさいと。ただ奴隷は来たときの状態で去らなければなりません。独身で来た者は、その後妻子を持つ身となっても独身で去ることになります。その場合、家を去ることを願わず、自らの意志で主人に仕え続けることも出来ました。もはや奴隷根性で主人に仕えるのではなく、喜んで主人に仕えるようになるのです。聖書はここに、私たちと主イエスとの関係を描き出しています。私たちを愛し、命をさえも与えてくださった主イエスを、私たちは自ら進んで生涯の主人とするのです。私たちは自らの意志をもって、喜んで主の僕として生きる者たちなのです。